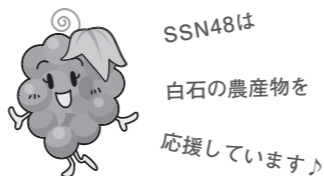


白石の新鮮野菜 う〜んとうまいから、食ってみてけらい〜ん！
〜白石市農産物直売所連絡協議会は、地産地消を推進します〜

白石市農産物直売所連絡協議会では会員を募集しています。市内で直売活動をされている方などで興味のある方は、気軽にお問い合わせください。



●今月の旬の野菜

ナス、キュウリ、サヤインゲン、オクラ、ブドウ など



1. 小十郎の郷 毎日営業！

9月19日(木)〜23日(祝)まで、「秋彼岸セール」を開催。2,000円以上お買い上げの方に、野菜(100円相当)をプレゼントします。

●販売時間 9:00〜18:00

●場所 旧白石市地方卸売市場 (福岡長袋字八斗蒔地内)

☎小十郎の郷 ☎22-0881 http://www.kojuro-sato.com



2. 馬牛沼産直センター

●販売日時 毎週火・木・土・日曜日 9:00〜17:00 (定休日：毎週月・水・金曜日)

●場所 国道4号沿い馬牛沼付近

☎馬牛沼産直センター ☎25-0520 bagyunuma@yahoo.co.jp



3. パーバ工愛市(クラブいち)

新鮮野菜や生花のほか、ブドウや桃などの果物も取り揃えてお待ちしています。

①JAみやぎ仙南白石地区事業本部構内

●販売日時 毎週水曜日 9:00〜12:00

②JAみやぎ仙南福岡支店構内(アグリハウス)

●販売日時 毎週土曜日 9:00〜12:00

☎JAみやぎ仙南女性部白石地区パーバ工愛市 ☎25-3531

9月9日(月)から13日(金)まで「食材王国みやぎ 県庁1階展示販売会」に出店します

9月9日(月)から13日(金)まで、「食材王国みやぎ」(県庁1階展示販売会)に白石市農産物直売所連絡協議会が参加します。昨年は、「今日も買いに来たよ」と、連日足を運んでくれる人がいたり、「このジャガイモ美味しいから待っていたんだよ」と、うれしい言葉をいただいたりし、会員一同「がんばろう！」という気持ちになりました。直売所の農産物は放射性物質を測定しており、新鮮で安全なものを提供しています。皆さんを笑顔にできる野菜を栽培・販売し、白石産の新鮮野菜などをPRするのが私たちの楽しみです。

今後も、いろいろな地産地消のイベントに参加しながら、白石のPRをしていきますので応援をよろしくをお願いします。

●日時 9月9日(月)〜13日(金) 10:00〜16:00

●場所 県庁1階玄関ホール

※期間中も、市内直売所は通常通り営業します。



▲昨年の県庁1階展示販売会の様子

9月15日(日)の「第27回しろいし蔵王高原マラソン大会」(場所：南蔵王野営場)にも出店予定です。

俳壇

山家 弘子 選

高らかな夏鶯に癒される 被災地に灼熱白き西日射す 粉霰に手を突っこんで採る若荷 薔薇散るや花の命を手に抱う 紫陽花の花押し分けて客の来る 五百個の風鈴鳴るや本門寺 投票を終へし安堵や梅雨晴れ間

高子うみん 岩松 隆志 岩澤 伍峯 制野 リエ 別当内信夫 和田 游稀 跡部 祐子

評 一首目、二句・三句は象徴としての表現で巧み。語呂合わせも生きている。「居たりし」は継続した状態の回想。 二首目、昆虫の生き生きとした動きをとらえた属目詠。涼しい暮れ方が迫っている。 三首目、擬人化されたお月様の其の顔はどんなだろう。メルヘンっぽい仕上げもいい。

戦中は着た切り雀と居たりしが物あふるる世にうそかと思ふ 八嶋 正子 ミズスマシ西日光れる早苗田に連ねゆく満揺らして進む 未吉アツ子 一日中蛙のおしゃべりやかましましよ真んまる月もあきれて居らん 佐藤 啓子 花摘んで煙の帰りの墓参り野菜の出来をあれこれ知らず 阿部みさ子 石段を登れぬ吾は車椅子のままにて拝む石の地蔵さま 平間 久子 お茶の間の日除けに蒔きしササギ伸びて実を成らせたり愛しと見つる 高子うみん 頂きし紫陽花の苗木漸くにひと季遅れて開き始むる 阿部はぎの 藤づるはにくまれっ子か何処までも畑の上に 佐藤喜和子 葉を広げゆく 好物のグリーンピースで豆ごはんふんと香る夫のクールの日 鈴木久美子 沢端の川に棲みたる錦鯉餌をねだりてみな寄り来たる 別当内信夫

歌壇

岩崎 聰之介 選

市民文芸

朝霧の蔵王の山のまだ見へず ほつれ毛や福蒲橋に初夏の風 時鳥鳴く夜の静寂寝酒のむ 遠藤 忠臣 菅野ちさよ 青木 重美

評 一句目、夏鶯は元は漢詩で言った言葉で老鶯とも言い、夏になって声に生気がなくなると言うのが声に乱れはなく流調である。高齢になり体力が落ちるに頑張ってきたが、今日はその気力が失せ床に倒れてきたと鶯がしきりに啼いている。フアイトフアイトと言われているようで有難く拝聴したのであろう。 二句目、震災前は豊かな自然に囲まれ生活していたが原産で帰るに帰れない家。帰れても家も田畑も荒れ放題で住める状態ではない。そんな被災地に灼熱の西日が容赦なく照りつける。白き西日とは言い得て妙。 三句目、大好きな若荷を粉霰を敷いて大事に育ててきた。大きくなった若荷を採る幸。

柳壇

四電 英夫 選

評 一句目、たとえどんなに辛くても、欲しがりません勝つまでは。忍耐こそが昭和の美德だったのか。 二句目、勝負はゲタを履くまで分からないという。武士道ではとどめを誤ることを恥とした。敵に対する礼儀でもある。 三句目、当店は値上げをしません、と言っ て目方を減らす。羊頭狗肉まがいの商法。世知辛い世相を嘆く消費者の心情が。 昭利誌を覗くと飢えの日々浮かぶ 草野 清 勝ち試合詰めが甘くて又落とす 斎藤 典子 こっそりと目方を減らす値上げ術 佐藤 啓子 潔癖が重箱の隅ほじつてる 石田みどり 亡き夫へ世の中変よと手を合わせ 寺崎 悦子 鮎釣りの竿のしなりに笑みこぼれ 佐久間とみ子 朝日受け葉露が光り恵む稲 大庭 良子 父の手の皴に米寿の歴史あり 村上 照夫 円安で値上げの津波押し寄せる 佐藤 孝子 別当内信夫

風間市長の風のささやき 「粹」

6月30日、公益社団法人日本青年会議所・宮城ブロック協議会主催の「第43回宮城ブロック大会」が本市で開催されました。その折の講演会に、東京と福岡を中心に、歴史講座を精力的に行われている、博多の歴史家、自駒妃登美さんが講師として来白されました。残念ながら講演は聞くことができませんでしたが、彼女の著書「人生に悩んだら「日本史」に聞こう」を読む機会を得ることができました。

6月30日、公益社団法人日本青年会議所・宮城ブロック協議会主催の「第43回宮城ブロック大会」が本市で開催されました。その折の講演会に、東京と福岡を中心に、歴史講座を精力的に行われている、博多の歴史家、自駒妃登美さんが講師として来白されました。残念ながら講演は聞くことができませんでしたが、彼女の著書「人生に悩んだら「日本史」に聞こう」を読む機会を得ることができました。

読んでみると、歴史上の人物の履歴を史実に基づき紹介されており、「なるほどそうだったのか」と、久々に肩がこらず、しかも知識や気付きを得ることができた。そして、その一部をご紹介させていただきます。 未来は、過去にある。 これはひとつの真実だと思います。 現代の賢者がソクラテスに学ぶように、現代のカリスマ経営者が松下幸之助から学ぶように。 観智はずで過去にありませう。そして、未来と過去はつながっているのです。 日本人の観智が結集した生き方もまた過去にあります。 江戸しぐさと呼ばれる江戸っ子たちの作法もそのひとつ。正しいか正しくないかではなく、楽しいか楽しくないかでもなく、粋か野暮か！ そこで、かつての日本人は生きていました。 今まで「粋か野暮か」など、考えた

ことがありませんでしたが、「江戸しぐさ」と呼ばれた江戸の作法を知り得たことは大きな収穫でした。彼女は「粋」を自分だけではなく、周りのみんなのハッピー(幸せ)を考え、逆に自分のことしか考えないことを「野暮」と考えています。そしてこれからの時代の価値観を「粋か野暮か」という価値観はどうでしょうかと、投げ掛けてくれています。その事例を、日本史上で粋に生きていた人々の具体的なエピソードをまじえて紹介されています。なかなか真似ができそうできない難しい一言です。私も斯くありたいと考えさせられました。

あの震災から二年半。発災当初から、声優の森川智之さんや、すまいる大使の山崎パニラさん、白石戦国武将隊奥州片倉組のメンバーは、白石市や宮城県への支援の呼び掛け、また、その後も首都圏などで内陸部の復旧の状況や復興の今を、自身のブログなどで紹介して下さっています。さらに、白石に自ら足を運び、賑わい作りを買って出てください、物心両面からの自立復興の支援を今もお行っているのだと聞いています。